

# 路線バス事業の収支状況について

## 1. 路線バス事業の収支状況（概要）

- ・黒部市では、計 8 路線の路線バス・コミュニティタクシー・デマンドタクシーが運行されています。
- ・令和元年度に策定した第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画では、公共交通網の持続に向けさらなる運行事業の効率化を図る観点から、「事業 18 バス路線等の定期的な見直し」を位置づけ、「一人あたりの収支（赤字額）」（※）や利用者数、沿線自治会による利用促進等の取組状況を把握しながら、改善に向けた検討を行うこととしています。

・本資料は、路線バスの運行収支を記載していますが、路線ごとに地域公共交通における位置づけや利用形態が異なることから、記載の収支状況を以て、路線の優劣を判断したり、比較したりするものではありません。

（※）「一人あたりの収支（赤字額）」：（運賃収入－運行経費）÷ 利用者数  
 （※）「収支率」：運行収入 ÷ 運行経費

### （1）路線バスの収支状況(全体)

- ・計 8 路線における令和 3 年度の一人あたり収支は△793 円で、令和 2 年度と比較すると赤字額が若干減少しています。
- ・一方で、令和 3 年度の運行収支は△104,148 千円で、赤字額が増加しています。

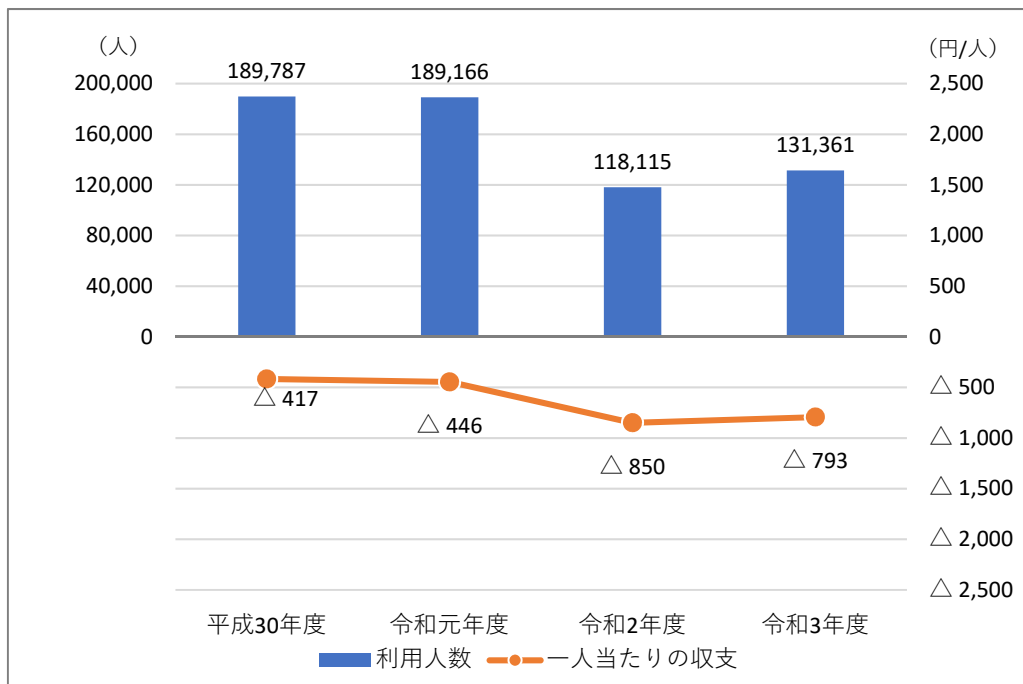


図 路線バス(全体)の利用人数・一人当たりの収支

表 路線バス(全体)の収支

	運行収入 (単位：千円)	運行経費 (単位：千円)	収支 (単位：千円)	収支率	利用人数 (単位：人)	一人当たりの収支 (単位：円/人)
平成 30 年度	45,601	124,682	△ 79,081	36.6%	189,787	△ 417
令和元年度	38,917	123,347	△ 84,430	31.6%	189,166	△ 446
令和 2 年度	24,593	124,983	△ 100,390	19.7%	118,115	△ 850
令和 3 年度	26,374	130,522	△ 104,148	20.2%	131,361	△ 793
令和 4 年度	24,659	148,005	△ 123,346	16.7%	—	—

※1 平成 30 年度～令和 3 年度は決算額、令和 4 年度は当初交付決定額ベース  
 ※2 生地循環線及び池尻線は市補助と県補助を合わせて一般会計から支出

## (2) 路線バスの収支状況(デマンドタクシーを除く)

- ・デマンドタクシーを除く計7路線における令和3年度の一人当たりの収支は△763円で、令和2年度と比較すると、赤字額が若干減少しています。
- ・一方で、令和3年度の運行収支は△98,012千円で、赤字額が増加しています。

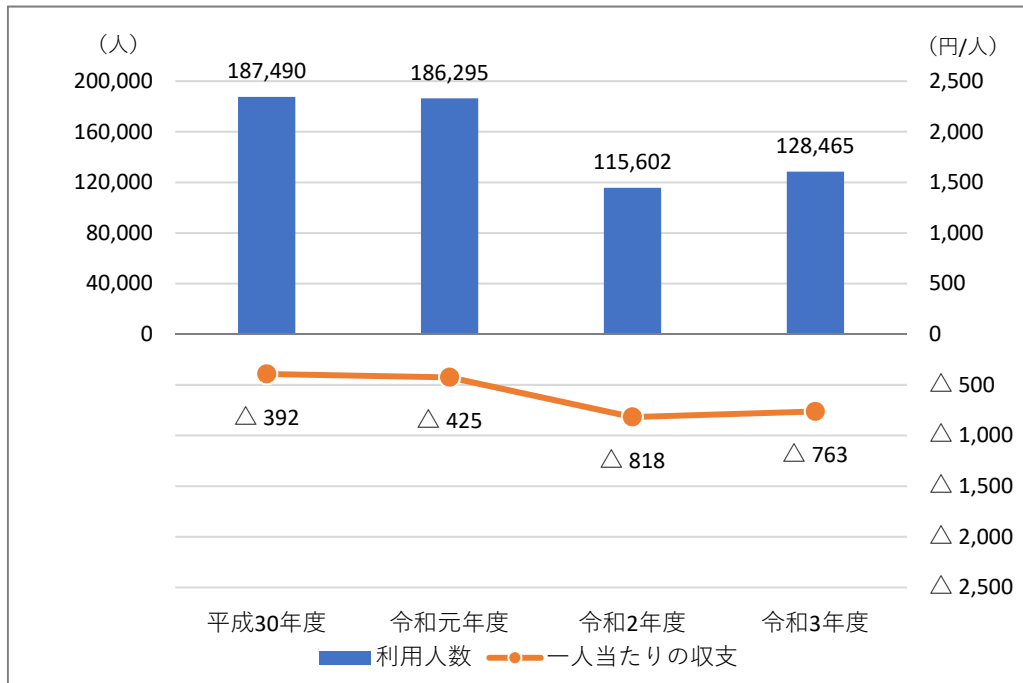


図 路線バス(デマンドタクシーを除く)の利用人数・一人当たりの収支

表 路線バス(デマンドタクシーを除く)の収支

	運行収入 (単位：千円)	運行経費 (単位：千円)	収支 (単位：千円)	収支率	利用人数 (単位：人)	一人当たりの収支 (単位：円/人)
平成30年度	44,855	118,426	△ 73,571	37.9%	187,490	△ 392
令和元年度	37,861	117,086	△ 79,225	32.3%	186,295	△ 425
令和2年度	23,873	118,379	△ 94,506	20.2%	115,602	△ 818
令和3年度	25,474	123,486	△ 98,012	20.6%	128,465	△ 763
令和4年度	23,903	140,534	△ 116,631	17.0%	—	—

※1 平成30年度～令和3年度は決算額、令和4年度は当初交付決定額ベース

※2 生地循環線及び池尻線は市補助と県補助を合わせて一般会計から支出

## 2. 路線バスごとの収支状況

### (1)【路線バス】新幹線市街地線の収支状況

#### ○ 新幹線市街地線の位置づけ

・あいの風とやま鉄道「黒部駅」を起終点に中心市街地を經由し、北陸新幹線「黒部宇奈月温泉駅」への“アクセス路線”として、新幹線のダイヤにあわせ運行しています。新幹線との乗継のほか、経路沿線では通勤、通学、通院、買い物などにも利用できます。

・新幹線市街地線における令和3年度の一人あたり収支は△1,168円で、令和2年度からほぼ横ばいとなっていますが、コロナ禍前の令和元年度と比較すると収支は回復していません。

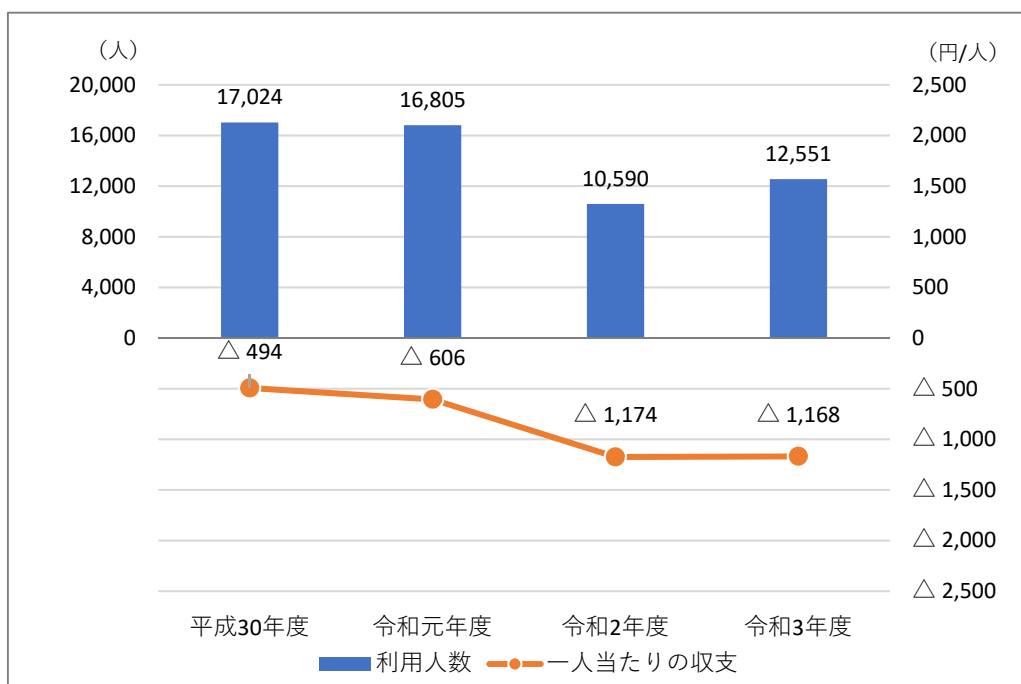


図 新幹線市街地線の利用人数・一人当たりの収支

表 新幹線市街地線の収支(単位:千円)

	収支率	利用人数 (単位:人)	一人当たりの収支 (単位:円/人)
平成30年度	44.4%	17,024	△ 494
令和元年度	32.7%	16,805	△ 606
令和2年度	18.9%	10,590	△ 1,174
令和3年度	17.4%	12,551	△ 1,168
令和4年度	15.0%	—	—

## (2)【路線バス】新幹線生地線の収支状況

### ○ 新幹線生地線の位置づけ

・黒部宇奈月温泉駅、生地駅で鉄道と結節し、魚の駅「生地」、吉田科学館、YKKセンターパーク、YKKの事業所・工場などを結ぶ“観光・ビジネス路線”として運行しています。市域北部を東西に結ぶ唯一の路線であり、生地・大布施・荻生の3地区を経由しています。

・新幹線生地線における令和3年度の一人あたり収支は△1,215円で、令和2年度から収支が329円改善していますが、コロナ禍前の令和元年度と比較すると収支は回復していません。

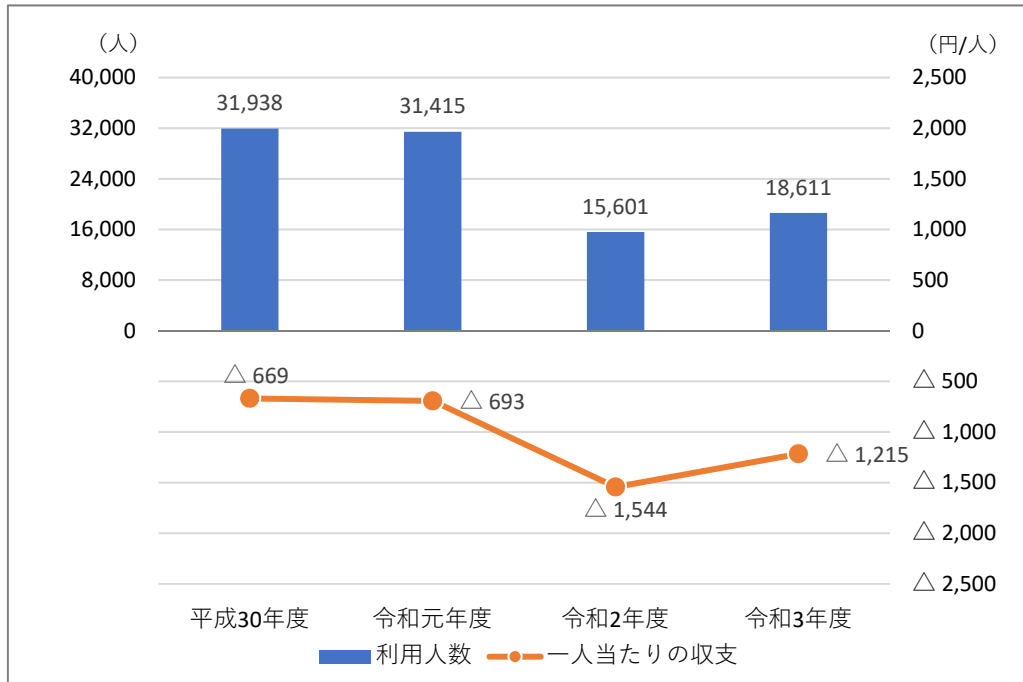


図 新幹線生地線の利用人数・一人当たりの収支

表 新幹線生地線の収支(単位:千円)

	収支率	利用人数 (単位:人)	一人当たりの収支 (単位:円/人)
平成30年度	21.6%	31,938	△ 669
令和元年度	22.2%	31,415	△ 693
令和2年度	11.2%	15,601	△ 1,544
令和3年度	13.9%	18,611	△ 1,215
令和4年度	14.5%	—	—

### (3)【路線バス】 生地循環線の収支状況

#### ○ 生地循環線の位置づけ

・あいの風とやま鉄道の生地駅と黒部駅の両駅を起終点とし、生地地区と中心市街地を結ぶ“**生活路線**”として運行しています。経路上にある2つの医院、中心市街地に位置する市民病院、電鉄黒部駅など、主に通院、通勤に利用されています。

・生地循環線における令和3年度の一人あたり収支は△1,269円で、平成30年度以降、収支は悪化していますが、一人あたり収支と収支率の減少幅に比べて利用者数の減少幅と少ないことから回数券利用者が増加していると推測されます。

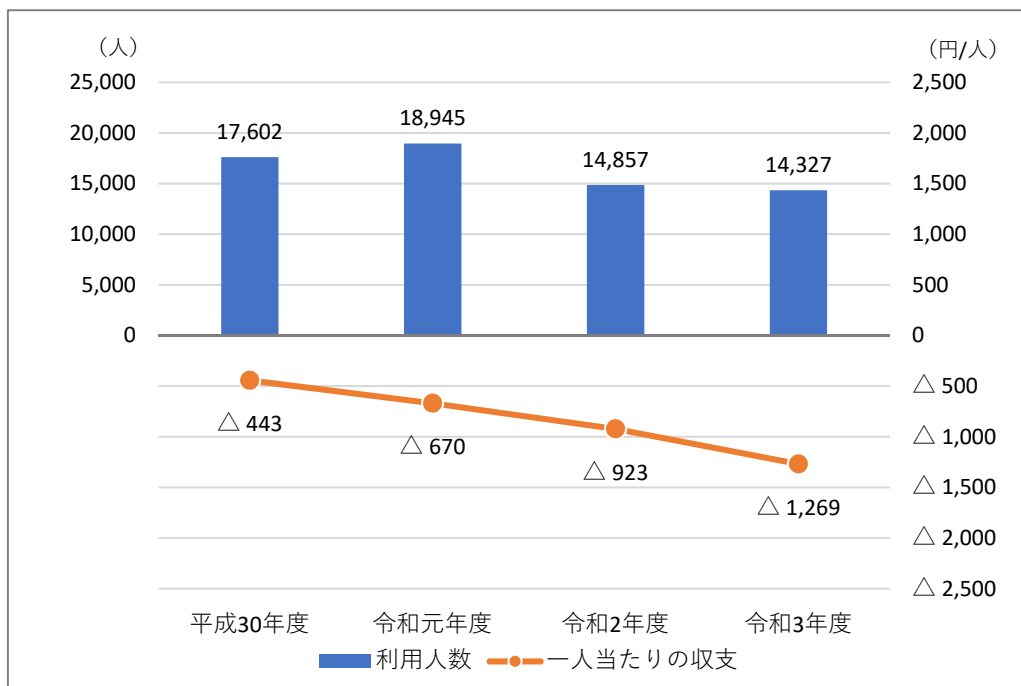


図 生地循環線の利用人数・一人当たりの収支

表 生地循環線の収支(単位:千円)

	収支率	利用人数 (単位:人)	一人当たりの収支 (単位:円/人)
平成30年度	52.5%	17,602	△ 443
令和元年度	24.9%	18,945	△ 670
令和2年度	22.6%	14,857	△ 923
令和3年度	16.5%	14,327	△ 1,269
令和4年度	12.4%	—	—

## (4)【路線バス】石田三日市線の収支状況

### ○ 石田三日市線の位置づけ

・石田地区と中心市街地を結ぶ“生活路線”として、石田地区を南北に分け、各エリアを運行しています。中心市街地に立地するあいの風とやま鉄道黒部駅、市民病院、商業施設など、通勤、通院、買い物利用が多く、近年では通学にも利用されています。

・石田三日市線における令和3年度の一人あたり収支は△1,006円で、令和2年度から193円改善していますが、コロナ禍前の令和元年度と比較すると収支は回復していません。

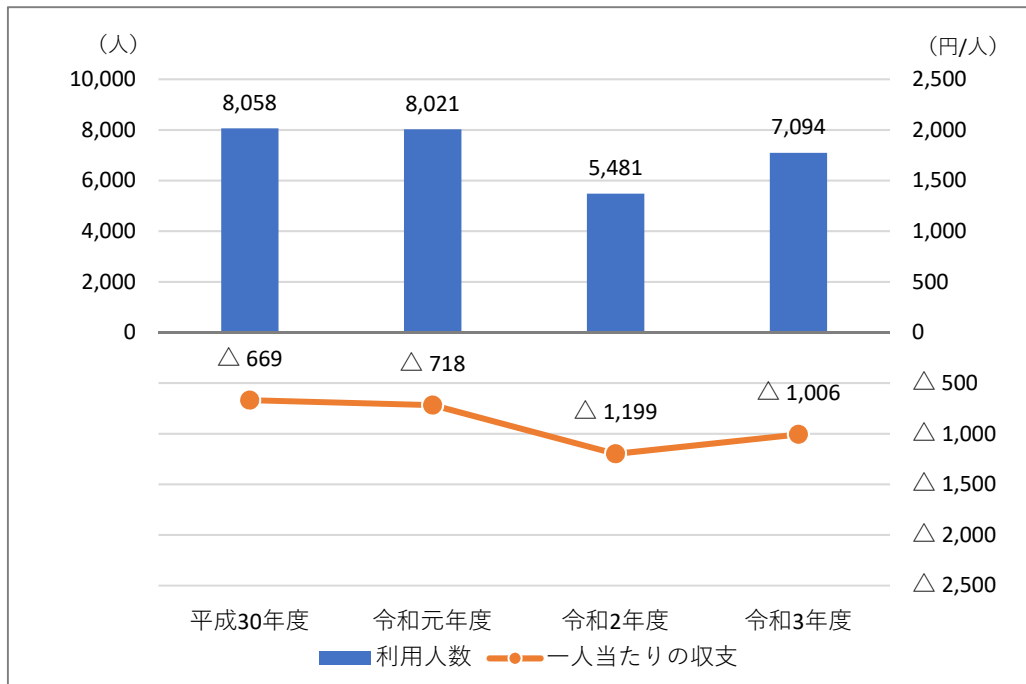


図 石田三日市線の利用人数・一人当たりの収支

表 石田三日市線の収支(単位:千円)

	収支率	利用人数 (単位:人)	一人当たりの収支 (単位:円/人)
平成30年度	20.1%	8,058	△ 669
令和元年度	18.4%	8,021	△ 718
令和2年度	12.0%	5,481	△ 1,199
令和3年度	13.6%	7,094	△ 1,006
令和4年度	9.9%	—	—

## (5)【路線バス】池尻線の収支状況

### ○ 池尻線の位置づけ

・東布施地区と中心市街地を結ぶ“生活路線”として運行しています。同地区には、鉄道駅、病院、商業施設、金融機関がなく、地域にとって重要な公共交通機関となっています。運行経路は、地区を縦断する幹線道路に居住が集約しており、経路の設定やバス停の設置において効率化が図られる利点があります。

・池尻線における令和3年度の一人あたり収支は△1,287円で、令和2年度から165円改善し、利用者とともにコロナ禍前の状況に回復しつつあります。

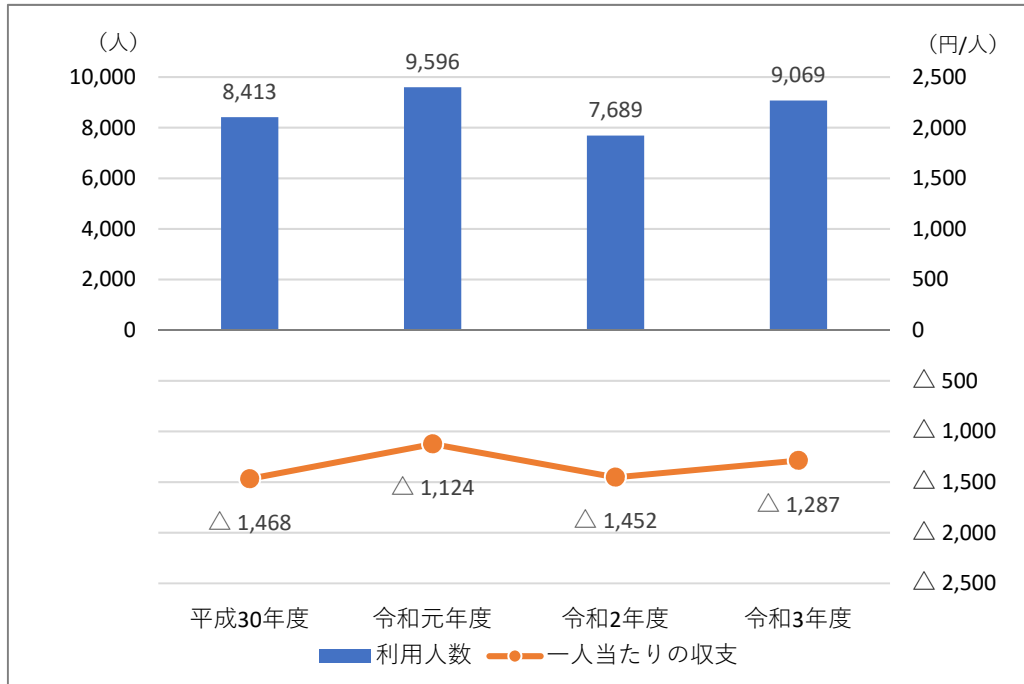


図 池尻線の利用人数・一人当たりの収支

表 池尻線の収支(単位:千円)

	収支率	利用人数 (単位:人)	一人当たりの収支 (単位:円/人)
平成30年度	12.8%	8,413	△1,468
令和元年度	10.2%	9,596	△1,124
令和2年度	8.5%	7,689	△1,452
令和3年度	6.4%	9,069	△1,287
令和4年度	5.6%	—	—

※ 平成30年度以降は、小型車両による運行

## (6)【路線バス】南北循環線の収支状況

### ○ 南北循環線の位置づけ

・黒部駅と生地駅を起終点とし、朝夕は沿線上のYKK社員の居住エリアと工場群を効率的に結ぶ“通勤路線”として、また、日中は吉田科学館やYKKセンターパークなどの観光施設のほか、福祉センターや市民病院、商業施設を経由する“生活路線”としても利用される「官民共同路線」として位置づけられています。

・南北循環線における令和3年度の一人あたり収支は△269円で、令和2年度から若干改善していますが、令和元年度以前は、一人あたり収支が△100円台で利用者が100千人前後で推移していることから、コロナ禍前の状況には戻っていません。

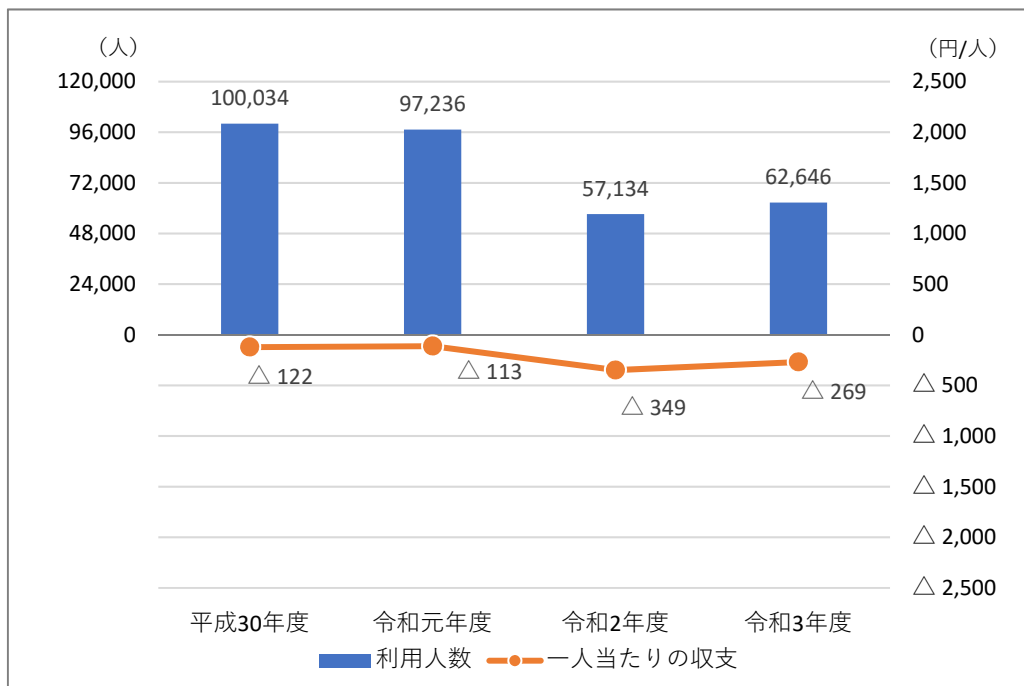


図 南北循環線の利用人数・一人当たりの収支

表 南北循環線の収支(単位:千円)

	収支率	利用人数 (単位:人)	一人当たりの収支 (単位:円/人)
平成30年度	62.0%	100,034	△ 122
令和元年度	64.0%	97,236	△ 113
令和2年度	36.6%	57,134	△ 349
令和3年度	43.0%	62,646	△ 269
令和4年度	33.5%	—	—



## (7)【コミュニティ交通】愛本コミュニティタクシーの収支状況

### ○ 愛本コミュニティタクシーの位置づけ

・愛本地区と宇奈月地域内の商業施設、病院などを結ぶ“生活路線”として、「愛本本線」のほか、愛本新・明日・栗虫地区と愛本駅を結ぶ「連絡線」、「枳屋大橋循環線」など、複数の系統により運行しています。

・愛本コミュニティタクシーにおける令和3年度の一人あたり収支は△1,650円で、令和元年度からほぼ横ばい状況であり、収支、利用者数から考慮するとコロナ禍の影響はあまり受けていないものと考えられます。

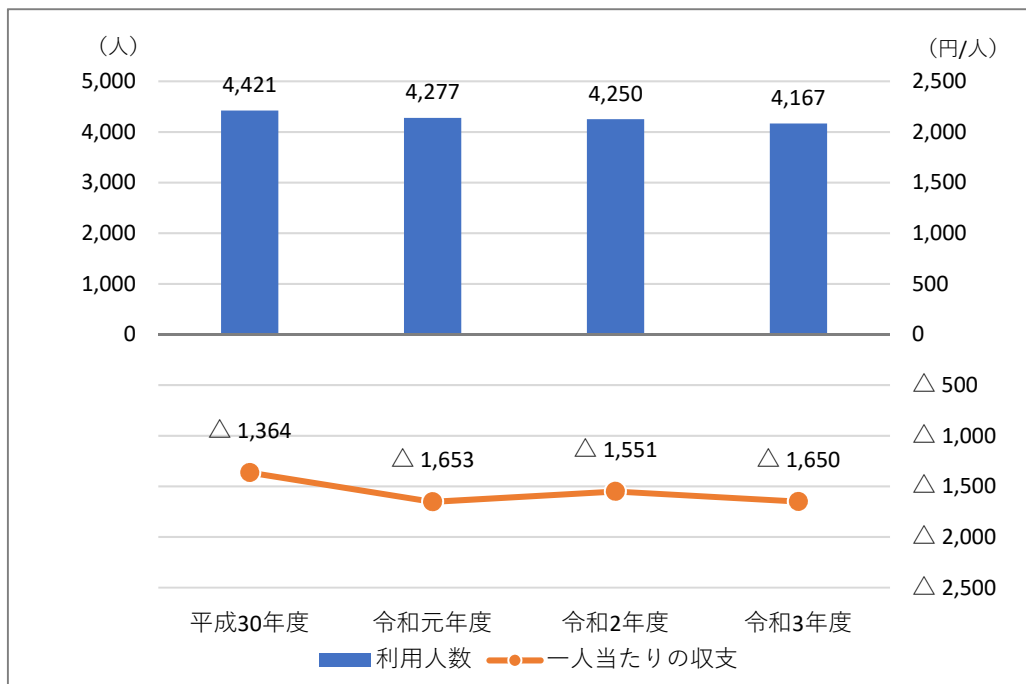


図 愛本コミュニティタクシーの利用人数・一人当たりの収支

表 愛本コミュニティタクシーの収支(単位:千円)

	収支率	利用人数 (単位:人)	一人当たりの収支 (単位:円/人)
平成30年度	7.8%	4,421	△ 1,364
令和元年度	6.2%	4,277	△ 1,653
令和2年度	7.0%	4,250	△ 1,551
令和3年度	6.7%	4,167	△ 1,650
令和4年度	4.8%	—	—

## (8)【コミュニティ交通】 デマンドタクシーの収支状況

### ○ デマンドタクシーの位置づけ

・田家野—中山エリア及び前沢—宮野エリア並びに村椿—大布施エリア及び荻生エリアと三日市エリアを結ぶ“生活路線”として、予約式乗合タクシー「デマンドタクシー」を運行しています。

- ・デマンドタクシーにおける令和3年度の一人あたり収支は△2,119円で、令和2年度から222円改善しています。コロナ禍前と比較しても、収支が△2,000前後で推移していることから、コロナ禍の影響はあまり受けていないと考えられます。なおデマンドタクシーは、予約制であり、利用者1人でも運行を行うため、他の路線バスと比較すると、一人あたりの収支が多くなる傾向があります。
- ・令和3年度の運行収支は△6,136千円で、平成30年度以降、赤字額が増加傾向となっています。

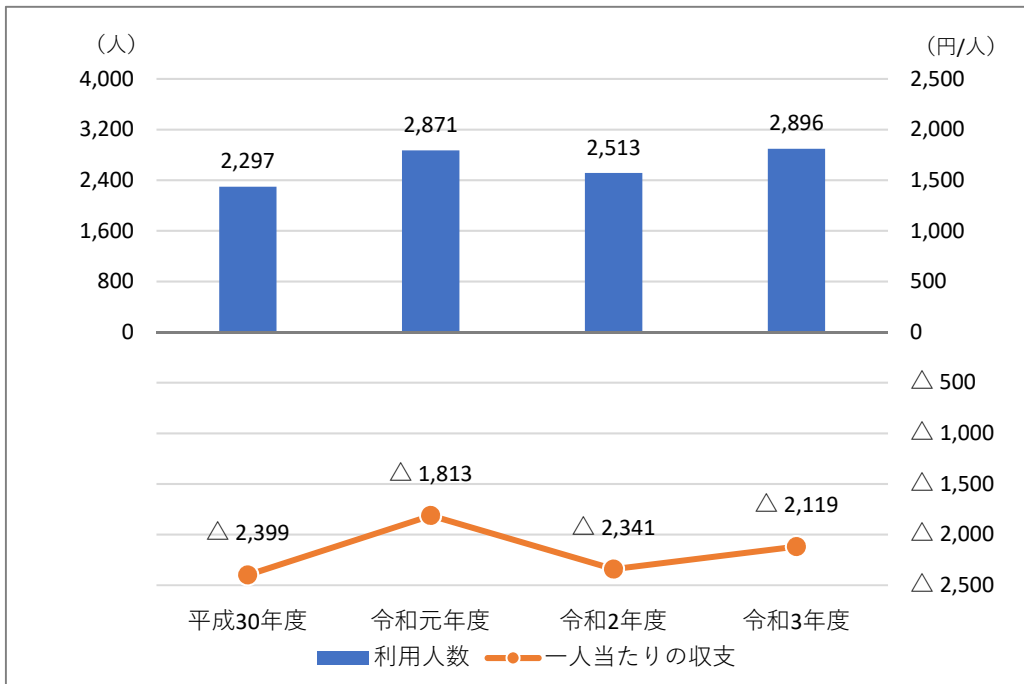


図 デマンドタクシーの利用人数・一人当たりの収支

表 デマンドタクシーの収支(単位:千円)

	収支率	利用人数 (単位:人)	一人当たりの収支 (単位:円/人)
平成30年度	11.9%	2,297	△ 2,399
令和元年度	16.9%	2,871	△ 1,813
令和2年度	10.9%	2,513	△ 2,341
令和3年度	12.8%	2,896	△ 2,119
令和4年度	10.1%	—	—